

(2) 特色のある教育活動

- ア 児童一人一人の自尊感情・自己肯定感・自己有用感を高めるため、全ての児童が「できた。分かった。」との思いをもつことができる教育活動を充実させる。
- ①特別支援教育の考え方を生かした「分かる授業」への改善を行う。多様な児童の学びに合わせた指導の在り方を追求し、全ての児童に分かりやすくする工夫を取り入れた授業や、自分に合った学習方法等を選択しながら学ぶことができる授業づくりを推進する。
 - ②個々の児童の認知特性等に係る教育的ニーズや、学習状況に応じた得意な学び方などを把握し、それを生かした指導・支援の方法を工夫する。ICT機器を活用し、個別最適な学び・協働的な学びの充実を図る。学校図書館の学習センター機能を生かした取組を通し、児童の自己理解を育む。
 - ③校内委員会の充実を図り、特別支援教室と通常の学級との密接な連携のもと、児童一人一人のニーズに応じた個別の支援を共通実践化する。特別支援教室担当教員による学級内支援を時間設定し支援の充実を図るとともに、個別指導計画・学校生活支援シートに基づく支援の在り方の見直しと改善を、担任との協働により推進する。
 - ④外部専門家や校内特別支援教室の教員を講師とした校内研究を実施する。校内研究会を原則公開とし、特別支援教育の考え方を共有するため、保護者・地域の参加を積極的に促す。また、他校教職員に本校研究会への参加を呼びかける、本校から他校へ指導・助言等に赴くなど、市内への普及・啓発に努めていく。
 - ⑤児童の特性に応じ、パーテーションやタイマー、ホワイトボード等の教具を活用し、児童にとって安心できる環境へと改善する。地域NPOの不登校支援事業との連携により、学級に安心感をもてない児童の居場所を校内に設置し、ICT活用により学習を保障しつつ、安心感や自己肯定感を高められる関わりを体験させる。
- イ 児童が自らの特性を知りすすんで生かし、成功体験を積み重ねていくことができるような、多様な教育活動を支えるための「地域とともにある学校」づくりを推進する。
- ①コミュニティスクールとしての組織基盤をさらに強固なものとする。学校運営協議会における熟議により、育てたい児童像を共有し、協働を推進する。
 - ②保護者・地域向け講座を開催し、「地域とともにある学校づくり」に係る理解啓発講座を実施する。支援者の育成を行い、人材を確保する。
 - ③地域参画型授業により、協力的・参加的・体験的な学習を取り入れた、多様な児童がそれぞれに達成感を味わえるバリエーション豊かな教育活動を展開する。各年間指導計画の見直しから教育課程を社会に開き、地域参画型等のリアルな体験や、ICT活用の空間的制約等を超えた体験活動を取り入れ改善を図る。
 - ④既存の支援員制度とともに、学校支援地域本部を通し関係諸機関や地域人材を積極的に活用し、個別の支援を充実させる。担任と支援者の打合せにより個別のニーズや支援目標を共通理解させ、支援の充実を図る。本部主催による特別支援教育に関する講座開催等を通して支援者の育成を行い、人材を確保する。
 - ⑤学校行事と地域行事の連携を積極的に図る。児童と地域住民に「おらが学校」の意識を共有させるとともに、教職員の参画意識を高めていく。